

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	オリーブまなびの家（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども・保護者のニーズに応じて、支援プログラムを作成しており、プログラム内容も工夫されている。	個別・小集団で支援を行い、一人ひとりに寄り添った5領域プログラムを作成している。 事前にプログラム内容について説明を行い、子どもが目的意識を持ち、意欲的に取り組めるよう促している。 机上課題だけではなく、小集団でのSSTやカード・ボードゲームを用いて、コミュニケーション力を育む取り組みを行っている。	子どもの生活を豊かにし、日常生活上で般化されていくために、更にプログラム内容を検証・改善を行っていきたい。
2	職員間のコミュニケーションを大切にし、利用者に関わる情報共有や支援内容の検証・改善等について定期的に話し合い、連携した支援を実施している。	一カ月の振り返りを記録する「プロセスシート」、毎利用時に各プログラムに対して評価を記入する「引継ぎシート」を記録し、検証・改善・職員間の共有を行っている。 また会議以外の場でも職員間で意見を出し合いながら、支援内容を検討している。	今後はアルバイト・パート職員との共通理解を深めるため、記録方法や情報共有の仕方について定期的に見直しを行っていく。
3	子どもの進学・デイサービス卒業後を見据えて、保護者も参加できる講座やガイダンスを実施している。	地域の塾や高等専修学校等の学校と連携し、保護者・子どもに対して情報提供を行っている。 適宜子どもの進路に関する相談を行い、助言・アドバイスを実施している。	適宜面談やオンライン相談を実施し、子どもの情報共有を行っているが、就労されている保護者などは連絡調整が難しい場合が多い。そのためLINE等を使用し、保護者にとって連携しやすい環境を作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関（学校・医療機関・他事業所等）との連携が取りづらい。	セルフプランの児童が多いため、相談支援事業所を介して関係機関と連携を行う機会が少ない。	今後はセルフプランのお子様も連携を図れるように、積極的に関係機関に働きかけていく。 また保護者と情報共有しながら、学校・就労先等と連携を図れるよう努めていく。
2	保護者同士の交流を持つ機会の場が少なかった。	子ども・保護者対象で、進路ガイダンスや卒業生交流会、性教育講座を実施したが、保護者同士の交流を深める機会は実施できていなかった。当事業所では中高生の利用者が多く、進路先やデイサービス卒業後を見据えた講座・学習会を中心に企画したため、時間の都合上保護者交流会の実施を行うことが難しかった。	各学校の年間行事を把握し、保護者が参加しやすい日時で、小中高生の保護者同士の交流の場を提供できるよう検討していく。
3	希望する曜日や時間帯にご案内することが難しく、利用できる枠が限られてしまっている。	利用定員や支援スペースの都合上、ご案内が難しい曜日がある。当事業所では送迎サービスを実施しておらず、特に就労されている保護者は利用可能な曜日が限定されてしまい、ご案内が難しい場合がある。	利用枠に空きが発生した際は、Instagramでのお知らせや基幹センター・相談支援事業所にも情報提供していく。 また自力通所が難しいお子さまに関しては、通所自立支援を実施し、自力通所に繋げていけるようサポートしていく。